

れるが無名である。

この村の人々は、「突然の神」と呼んでいるが、昔の人が、此処の荒地を耕していたところ、この碑が突然に、土の中より出てきたのに驚き、何かの由緒あるものと思い、ここに祀ったことに始まる。と云伝えられている。突然に出て、発見されたので、仏像名も解らないため「突然の神」として、今日に至っている。大正十年に、このように、基礎工事がなされて、祀れている。



三四 所在地 大字神の前

通称、遠の木と呼ばれている所に、ケヤ木の太木あり、此の周囲に八基の自然石で、内一基は、高〇・四六、巾〇・一七米に南無阿弥陀仏と記されてあるが、外七基は無名のまゝ建ててある。供養のために建てられたものと云われている。横に次の立札が立っている。

(表面)

天君命陵墓

応神天皇の御天原の内乱があり

其の犠牲となつて、この所にて自決し給う

(裏面)

日の宮開頭の墓表

高天原、日の宮、春木秀映建立

古老の話しに依れば、昔杉の太木あり、これを部落民が切り倒した年に、部落民が、ほとんど、伝染病にかかつて悩まされた。それ以来この地を祀つてきていると云う。

又、栗屋家の祖先の墓地とも云われているが詳しくことは不明であると云う。

毎年七夕の時に墓地の掃除を行い霊に祈りを捧げている。

三五 所在地 大字長崎 (上長崎)

下長崎と上長崎の中間、右道上に、せんみよう坊と呼ばれるところがある。詳しいことは不明である。(高さ〇・五一米、巾〇・二米の石碑) 正面に「南元阿弥陀仏先祖作右門」と銘あり。

三六 所在地 大字長谷

小学校横に森ありて古木の根元に碑が建立しあり、正面に「虎御前の神」、右面に「山の神」、左面にコウシンズカ、裏面に昭和三十四年六月建主佐藤セキと銘あり。

碑高(〇・四五、
巾〇・一四米で)
通称トラゴゼと
呼んで居る。

有名な曾我兄弟
の兄十郎の妻が
尼となり諸国を
行脚し、供養した所と云われている。



三七 所在地 大字高辻(前)

薬師堂の前に、五輪塔であったと思われる一部がある。

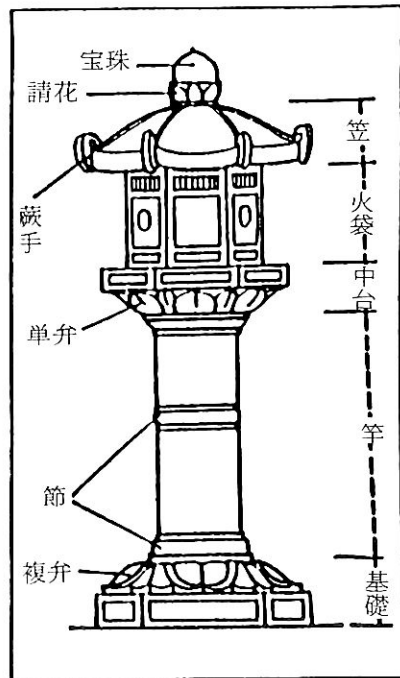
台石と思われるもの(〇・二五×〇・二六米)円形(直径〇・四二×〇・三八米)それぞれ一基あり相当古きものと思われるが、詳かでないが昔、供養のために建立されたものと思われる。

四、灯籠

仏前への献灯具として発達したもので、我が国へは、仏教の伝来とともに大陸から朝鮮を経て渡来したものといわれているが、奈良・平安時代のもは稀で、鎌倉時代に至り、その黄金時代を迎え、室町・江戸時代を経て今日に及んでいる。

この灯籠は、古くは寺院や堂の前に一基を建てるのが習慣であ

ったが、これを左右に一对にするようになったのは室町時代末期からといわれており、後には寺院等だけでなく、神社にも取入れられて、照明と景観又鑑賞用、として庭園にも置かれるようになった。



三八 所在地 大字二瀬本(丸小野)

火伏地蔵秋葉神社

石段の最上段の左

右に、高さ一・五

巾〇・五五米の灯

籠が二基あり、ど

ちらも弘化三年

(一八四六)正月



吉日の建立で、右の灯には、世話主、仁瀬本、礼八、丸小野、立されてある。正面に奉獻燈、信用講記念、明治四十二年七月十日、石工、山下政太郎の銘がある。

工、利作、上益城三名連石中とあり。左の灯には、世話主、二瀬本礼八、丸小野、和五市、藤田文兵衛、名連石、半之丞、同、元之丞、南関石工国作、上益城三名連石中と銘あり、いずれも、奉寄進とされてあり、同神社が、火災予防の守り神として、昔から如何に有名であり、靈驗あらたかな神として信仰があつたかが、うかがわれる。

三九 所在地 大字長崎(上長崎)

公民館(薬師堂)前、両側に六角形の灯籠が建立されてある。正徳二壬辰年(一七二二)九月吉祥、奉寄進、石灯籠一对、氏子中、右側に、藤原氏、佐藤辰之助、同氏、佐藤甚吉と銘がある。

四〇 所在地 大字方ヶ野

部落公民館左側に、(高さ一・八三米)灯籠が建立されてある。正面に誓願成就、右面に馬見原町大字方ヶ野、氏子倉岡一男、左面に奉燈、裏面に、大正十二年一月七日と銘がある。

四一 所在地 大字柳井原

四国八十八ヶ所のお大師堂前に(高さ一・一九米)灯籠が建

四二 所在地 大字馬見原(岩尾野)

大日堂庭左側に、高さ二・一〇米の灯籠が建立されてある。正面に、奉寄進、安政四歳(一八五七)丁巳霜月吉日、富岡願主、六十六部敬助、世話人弥三郎、他に、村世話人、栄作、政彦、才吉、外数名の銘あり。

四三 所在地 大字滝上(下番)

加藤社の庭に笠の部分が無くなっているが、高さ〇・五七米の灯籠が二基建立されている。弘化三(一八四六)丙午年八月二十四日、江戸、芳五郎、鶴崎政五郎、同嘉市と銘がある、今、思うに、東京や大分鶴崎の在住の方までが奉納されていることは、当時の馬見原の町の全盛時代が如何に有名であつたかを物語る一つであろうと思われる。

又、社内の中央には、ケヤ木一枚物で清正公社、と堀込みの立派なものが奉納されており、これらも東京、関口と銘がある。

四四 所在地 大字塩原

斗塩観音堂石段前に、台石(巾〇・六七、厚〇・一七米)塔

身(巾〇・二四、高〇・四五米)笠(巾〇・四一、高〇・一五米)の塔がある。弘化四歳(一八四七)と銘あり。

四五 所在地 大字今(滝下)

役場より今滝下に下る途中左側、岩の下に祠がある。滝下お大師さんで昔は、大変賑ったと云う、その前に、高さ〇・九米の灯籠が建立されてある。明治十六年末八月一日、奉納、滝上村、坂本恒吉の銘がある。

四六 所在地 大字今

観音堂石段の左右に、高さ二・二二米の灯籠が建立されてある。

右側は、奉納 昭和八年十一月今氏戸中

左側は、奉寄進 台石に昭和六年旧八月吉日

鹿児島県川辺郡笠砂村小浦

石工 上村庄一と銘がある。

四七 所在地 大字八木

観音堂前に高さ一・七五米の灯籠二基が建立されてある。

文化八年(一八一二)九月と銘ある。

四八 所在地 大字塩出迫(下塩出)

観音堂庭両側にあり、高さ一・六〇米

享和元年(一八〇一)十二月の建立で、奉寄進氏子中とある。

四九 所在地 大字塩出迫(下塩出)

通称、天神さんと呼ばれている所に、正面両側にあり(高さ

一・三五米)明治十二年二月二十五日の建立で、中村常太、真

原猪之吉の銘がある。

五〇 所在地 大字塩出迫(上塩出)

観音堂の石段中央両側にあり(高さ一・二米)

文化元年(一八〇四)八月の建立となっている。



五一 所在地大字菅尾

天満宮正面両側

に、高さ、左一・

三五米、右一・二六

米の石塔あり、建

立年月詳しき不明。



五二 所在地 大字二瀬本(丸小野)

お大師堂の前に、高さ一・三〇と一・一五米の灯籠が二基建立され、奉寄進、弘化五年(一八四八)申三月吉日、氏子中と銘がある。

五三 所在地 大字柏(溜測)

不動尊堂前に高一・三六米の灯籠が建立されてある。
安政二年(一八五五)乙卯八月吉日奉寄進、大願成就、小崎義久と銘がある。

五四 所在地 大字橋(椎屋)

お堂前入口左右に、高一・五米の灯籠が二基、建立してあり、明

治二十八年(一八九五)旧七月二十一日奉寄進興稻藤吉と銘あり。

五五 所在地 大字橋(椎屋)

慈眼山大師堂の前に、高さ一・二三、巾〇・三二米の灯籠が建立されており、奉寄進、椎屋村、文化七年午(一八一〇)七月吉日と銘がある。

五六 所在地 大字橋(椎屋)

部落中心地に天神宮があり、その両側に、二基建立されてある。(高一・四、巾〇・二一米)奉納天神宮、文化四丁卯(一八〇七)七月吉日、椎屋村惣氏子中と銘がある。

五七 所在地 大字下山(宗旨ヶ鶴)

石橋の上流約五十米地点左側に天神宮の祠がある。その前に灯籠がある。奉寄進安政三年丙辰(一八五六)三月吉日と銘あり。

五八 所在地 大字柳

町道より、約百米右に上り、佐藤睦夫氏宅入口、左側石段を約三〇米登ったところに観音堂があり、その両側に灯籠が二基建立されてある。右側(基礎巾〇・四八、高〇・二三米、全長一・五三米)

奉寄進右灯籠・天下太平、正徳元年（一七一一）六月吉日国土安全、井芹甚平則直と銘あり。

左側（基礎巾〇・四五、高〇・二六米、全長一・四四米）
奉寄進、天下太平、享保一八丑（一七三三）歳八月吉日
柳村之住、栗屋助左衛門直昌と銘がある。

五九 所在地 大字大見口

観音堂の前に二基の灯籠が建立しある。
文化七年（一八一〇）二月中旬と銘あり。

基礎石（巾〇・三五、厚〇・一五米）塔身（高〇・九九、巾〇・二五米）笠（巾〇・五、高〇・二九）全長一・四三米の同型である。

尚、左側に手洗石があり、文政三辰（一八二〇）年、八代目乙助と刻みあり、台石（巾〇・四五、厚〇・一六米）洗石（巾〇・三九、高〇・二七、厚〇・二九米）手洗口（巾〇・三米）

六〇 所在地 大字上差尾（百枝）

観音堂の庭に二基の灯籠が建立されてある。

左側は二津留村氏子中奉納とあり、右側は、岩下村、佐渡熊太郎、同朝次郎、同作太奉納と銘あり。建立は同年月で明治二十七年（一八九四）六月吉日で同型のものである。

台石（巾〇・五、厚〇・一〇米）塔身（高〇・九二、巾〇・二米）笠巾（〇・四二、高〇・三五米）

六一 所在地 大字東竹原

菅原神社境内入口の左右に灯籠二基あり。

左右共に同形にて（高一・三、塔身一・〇二、笠巾〇・四四米）

御神灯奉寄進、天保十二丑年（一八四二）七月吉詳日

右、東竹原村 甲斐治左衛門

左、西竹原村 林治妻ヤヨ

竈崎横尾村、葛木富五郎と銘あり。



六二 所在地 大字東竹原

大師堂右側に二基建立しあり。

右側は、全長一・三五米、天保十二丑年(一八四二)七月吉詳日

奉寄進・御神灯、西竹原村、林治

左側、全長一・三〇米、昭和十五年八月吉日

奉灯、菅原伝治郎と銘あり。

六三 所在地 大字東竹原

大師堂の左側に二基建立とあり。

右側(全長一・四七米)は、天保十二丑年(一八四二)七月吉

詳日

奉寄進、御神灯、東竹原村、甲斐治左衛門

鶴崎横尾村、葛木富五郎

左側(全長一・二〇米) 昭和十五年八月吉日

奉灯、菅原朝熊と銘あり

五、板 碑

板石で造った供養塔で、これを板碑という名前は仏教上から出たものでなく、便宜的に名付けられたもので、「板佛」ともよばれるが「板石塔婆」の名称が用いられている。

板碑の形は、いろいろな板状の石に「地神塔」とか「青待青面大金剛」「猿田彦大神」という字や、仏の種子(梵字)や仏像

を刻んでいるものなどを総称して板碑と呼んでいる。そして、それに台石や台座をつけたものや、そのまま、地中に建てたものもある。

又、板石に限らず、自然石を、そのまま使用されているものもある。

一応見やすくするために、庚申関係板碑と猿田彦大神板碑に区別した。

1、庚申信仰碑

六四 所在地 大字長崎(下長崎)

大師堂の前に、自然石の板碑が、建立されてある。台石(巾

〇・六六、厚〇・一八米)碑(高一・一九、巾〇・五七米)碑

石中央に、庚申講

とあり、天明二(一

七八二) 壬寅三月

二十九日の建立。

古老の話では、

昔より、ここに、

お参りすると「お



金の廻りが良くなる」と、云われていると云う。石切は、廻瀨、弥平とあり。

六五 所在地 大字 今

通称高仏の台地登り上った、老松の根に、板碑が建っている。自然石（巾〇・四五、高一・〇五、厚〇・一八米）で、中央に、南無阿弥陀仏と刻れ、その面に右側より、奉納関西九千国大口妙典勸進、南無観世音菩薩。法善坊、壇那今村、内蔵佐山部口継口、武運長久、子孫繁栄、現世安態、

□□□□、上部に、

秀當和尚、とあり、

左面に、今村越前守、

山部家一同、南無釈

迦全口仏、右面に、

石仏造立者、忠五郎、南無地藏大菩薩、岩見守の銘があり、碑の正面全体に、弥陀仏の姿絵、数体が刻まれてあり、眺らしい板碑である。



六六 所在地 大字高辻（前）

元、東照山東光寺の建立されてあったと云う寺院跡地に板碑



って欠損しつつ、あるので、大切に保護したいものである。

碑（高約一・一〇、下巾〇・三五、中間〇・七米）の自然石である。

又此の碑の根元に、宝篋印塔の一部と思われるもの五〜六個ありて相当古く、由緒ある所と思われる。

碑面には一杯に線刻立像三体を三尊形式に配し、右端に一行紀年銘がある。像は、

それぞれ、蓮台上に、

頭光を負って立ちて

三道を表し、本尊は

（〇・三三米）中央

上部に、脇侍よりひ

とまわり大きく表わ

が建っている。阿弥陀三尊の姿が刻みありて、町内では、眺らしい。干時大永七年（一五二七）丁亥三月吉日、施主、敬白とあり凍害等によ



され、右斜前を向き、親指と人差指を捻している。阿弥陀如来、脇侍は、二尊とも、像高(〇・二九米)斜中央を向いている。

右像は、右手に錫杖、左手に宝珠を持った比丘形の地藏菩薩、左には合掌手で、わずかに身を屈めた形である。

六七 所在地 大字下山

八幡宮境内左側に板碑が建立されている。正面に、奉待青面金剛、明和九壬辰(一七七二)八月吉良日、講衆中と銘あり、下部に講衆の人々の氏名と思われる文字があるが読みとれない。

台石(横一・五、高〇・九、巾一・二二米)の上に、自然石(巾〇・七、高〇・八、厚〇・一五米)の碑であるが、詳しくことは不明である。

六八 所在地 大字高辻

町道(下山線)より右小道に入った所に石室四基と列んで、板碑が二基、合祀されている。

左側大木の根にある一基は(高一・八二、巾〇・七四、厚〇・三六米)正面に、奉納四国八十八ヶ所、天保十二年(一八四一)丑三月吉日、小倉・早橋講中とあり。右側の碑は、台石(巾〇・九、厚〇・一七米)の上に、自然石(高〇・八、巾〇・四九米)で、正面に地神塔、慶応三年(一八六七)卯三月吉日、小倉村

氏子中と銘あり、詳しくこと不明である。

六九 所在地 大字高畑(宮ノ下)

部落入口三叉路右側ノール号記念碑の後に板碑が建立されている。自然石で(高〇・七、巾〇・三三、厚〇・三五米)正面に、奉待青面金剛講衆中、明和九壬辰(一七七二)天三月吉良日、下部に欽言と銘がある。昔から、ここに参ることにより、金廻りが良くなると言い伝えがある。

七〇 所在地 大字東竹原(筒丸)

町道、高畑川走線沿へに、「彼の石」と云うところあり、此の彼の石の道端に、高さ二・四、横三・五、厚二・八米の大きい自然石の板碑がある。

昔、日向の殿様が、江戸参勤交代で、江戸に登る時、此の道を通っていたと云われ、ここより約四百米程下りた所に、「茶屋の跡」と云うところあり、又その他より約三料程、行った(草部地内)所に、「ヨコイ」の元と云うところありて、ここにも、茶屋があったと云われ、昔時、肥後と日向を結ぶ、主要路線であつて、往来する旅人も、多かつたと云う。その後、新道の改修に伴い、通行人は、ほとんどなくなっていたが、本年度より、国道三三五号線の新設改良工事に伴い、再び、国道沿いとなり、

脚光を浴びるようになった。

碑には、中央上部に太陽の印ありて、奉祝御甲申、右ハひうがゑ、左ハあそ山、くまもとゑ、南無阿弥陀佛、下部に、竹原村、吉蔵、浅右門。

文化十三丙子（一八一六）年八月十一日と堀込まれてある。こ

こ日向街道を通行する旅人の安全を祈り又道しるべとして親しまれたことであろう。



七一 所在地 大字柳

町道より約百米右に上り、佐藤睦夫氏宅入口左側に同じ基礎台（巾三・〇、高〇・六米）に、板碑が、二基建立されてある。左側（高一・〇五、巾〇・四六、厚〇・四米）の自然石に、上部に、太陽の印ありて庚申青面金剛とあり、安永四乙未（一七七五）天、三月中旬、下方に、栗屋用右衛門、佐藤清太夫、井芹庄右衛門、同貞右衛門、佐藤太平次、同太蔵、同又市、同寿禎、栗屋兵左衛門、井芹兵内、同伝左衛門、佐藤善次、井芹武兵衛、井芹真次、栗屋酉右衛門の銘あり。

右側は、猿田彦大神の板碑が建っている。

七二 所在地 大字長崎（甲長崎）

部落では十九坊さんと呼ばれている。高さ一・二二米、巾〇・五七米の碑が建っている。

詳しくこと建立年月等は不明である。

七三 所在地 大字神の前

面の原の北側杉山の中に千人塚と云われる所があり、板碑（自然石・高さ〇・八五米）が建っている。その中央に南無阿弥陀仏と銘あり、その前に、

「応神天皇の御守、高天原の乱あり、倭人伝に見ゆる内乱にて千余人の犠牲者出ず、依って村人この所に埋葬して千人塚と称す。靈障があるの、家畜の出入を禁じた伝承がある」と記されてある。



七四 所在地 大字滝上（土戸）

公民館正面上部の旧道より右に入りたる所に板碑が二基が榊の

老木の根元に建立されており左側は高さ一・二五、巾〇・八米、右側は、高さ一・一八、巾〇・六米にて無名のもので詳かでない。

七五 所在地 大字滝上(土戸)

圓福寺境内横石段に板碑が寝かせてある。

碑文に、奉寄進、文化十一(一八一四)戊五月吉日七戸村与吉と刻ある。又境内に手洗石あり、奉寄進嘉永七年(一八五四)寅七月と刻あり。

この圓福寺御本尊は慶長十四年(一六〇九)九月十五日此の地に建立されたと銘記あり、其の後信心厚き氏子により寄進されたものと思われる。

七六 所在地 大字滝上(竿渡)

部落北側裏山に、元文元年(一

七三六)建立の板碑が建立されている。上部に梵字がある。

台石三段で(下巾〇・七、高〇・三米、碑高一・三米、厚〇・一六米)惜しくも、上、下二ツに割れている。碑に、妙清禅尼寿住と銘あり、詳しくきこと不明。



七七 所在地 大字菅尾

老人福祉センター前広場において、建立年月等詳しくは不明。

供養のために建てられたものと思われる。(高、巾共〇・九米、厚〇・一五米)太陽と月が上部に刻みあり。

七八 所在地 大字塩出迫(上塩出)

牧野入口近く、町道左側杉山

に在り詳しくは不明であるが何人かの供養のために建てられたものと言う(高一・三五、巾一・三〇、厚〇・三米)中央に「南無阿弥陀仏」と刻みある。



七九 所在地 大字米迫(米山)

部落公民館の横にあり(縦一・二〇、横〇・七二、厚〇・一六米)天明二年(一七八三)の建立である。

奉納 庚申 米山村と刻みあり

八〇 所在地 大字今(滝下)

滝下お大師さん

祠の横に、板碑が二板ある。一板は上部が割れているが、高さ約一・〇米のもので左右に仏像二体が刻まれる。



「米粒山」と銘あり他は判読出来ないが相当古いものと思われる。他の一板は㊦字が刻れてあるが、供養の碑と思われる。建立年月等不明である。

八一 所在地 大字花上(下神働)

観音堂の後の山に、板碑が古木の根に建立されてある。

自然石で(中〇・四二、厚〇・二、高〇・八米)建立年月等詳

しきこと不明で

ある。中央上部に梵字が刻まれてあり昔供養塔として建てられたものであろう。



八二 所在地 大字二瀬本(丸小野)

丸小野にあるお大師堂の横に、下が欠けているが(高さ約一・三五、中〇・九五、厚〇・三五米)板碑が建立してある。

表面に奉捷立四国八十八ヶ所、弘化五年(一八四八)申三月吉日、横に仁瀬本、大野原、丸小野三ヶ村氏子中、

裏面に奉記、山口伯寿外八十余名の方々の氏子と思われる名前が記されてあるが、判読できない。

八三 所在地 大字二瀬本(坂の上)

坂の上、八幡宮横に(高さ〇・九五、中〇・四五、厚〇・一二米)板碑が建立してある。正面上部(㊦)の梵字(ウン金剛索)

があり、奉納青面金剛童子寛政十二年(一八〇〇)申六月吉日、大野原、田上源九郎と銘あり。詳しくは不明。

八四 所在地 大字柏(元柏)

山部家の墓地の右横上部に、古い板碑が建っている。

石面は長年の風雪に壊れ、はつきりしないが、正面に、三つの梵字の跡がうかがわれる。

伝説によれば、柏城の某家老の墓とも云われているが、詳しくことは不明である。(縦〇・九、横〇・七、厚〇・一五〇・二米)

八五 所在地 大字二瀬本

田上静夫氏宅裏山に、台石(自然石 横〇・八、厚〇・二米)に高〇・九、巾〇・五三、厚〇・一米の板碑が建立されている。

正面に、奉納、水堂院大神、二条、三同、四同、右下に藤原宗勝とあり、壽永元(一一八二)壬寅三月十有七日の建立となつ



ており、八百四年前のものにて町内では最も古い板碑である。詳しいことは不明である。

八六 所在地 大字橘

公民館横の、タブの古木の根元にあり永年の才月を経ており、碑文及詳しくことは不明である。その側に、石仏の台石のみ一基がある。八十八ヶ所の一ツと思われるが何番か不明であり、□番薬師如来と刻みあり。

八七 所在地 大字高辻

薬師堂の前に板碑が建立されている(高一・一五、巾〇・六六、厚〇・二五米) 正面上部に梵字三字ありて下部に

如□禅座 文□禅□門 と刻みあり。詳しくは不明である。



八八 所在地 大字高辻

元東光寺、寺屋敷跡と云われる（現在杉山）所に板碑が一基あり（高〇・九、下巾〇・九、中巾〇・六、厚〇・二米）自然石で上部に㊦の刻みあるのみで、詳しく不明である。供養塔として建てられしものと思われる。

八九 所在地 大字高辻（前鶴）

早檜神社境内道路上に猿田彦大神と列んで板碑が建立されている。台石（巾一・〇、厚〇・一七）の上に、自然石で（高一・〇五、下巾〇・六、中巾〇・五五米）正面に地神塔、慶応元年（一八六五）乙丑七月吉日、早檜・小倉村中と銘がある。詳しくこと不明である。

九〇 所在地 大字東竹原（野原）

竹原線入口三叉路左側に板碑があり、自然石に地神塔と銘あり、建立年月等不明である。（下巾〇・七五、中巾〇・八、高一・二米）

九一 所在地 大字柳

梶原に通じる町道、橋を通り約五十米の所より右に小道に入り、杉山の頂上に板碑二基建立しあり。

左は、台石（巾〇・五米）の上に高（〇・八五米）自然石に

大日如来 明治三十六年三月十八日 八人組、石工佐渡格之十と銘あり、右は、馬頭観音 明治二十六年己三月十八日 世話方、田上六之助、岩下種平、井芹宇太門、田上伝之十、田上今之十、田上〇七良、井芹昌秀、井芹昌久と銘あり、台石（巾〇・六、厚〇・三米）の上に（高〇・九四、巾〇・五、厚〇・〇七米）の自然石の碑である。

九二 所在地 大字大見口

奈須時男氏宅地前方に、板碑が建立されている。

台石（巾〇・四、厚〇・一五米）碑石（巾〇・二五、高〇・四米）共に自然石で、表面に馬頭観音、大日如来、明治二十八年七月と銘あり。この地方は、昔より馬の飼育が盛んで各戸で数頭飼育されていた。この為馬頭観音を奉祀されたものと云う。

2、猿田彦大神

国つ神で瓊々杵尊（にぎはひのみこと）、降臨の際、先頭に立ち道案内をし、後伊勢五十鈴川の川上に鎮座したと伝えられている。容姿魁偉で、鼻の高さ七咫（た）、身長七尺と伝えられる。このことから神々の神幸の先頭に立ち、衢（ちまた）の神となり、中世の頃から庚申の日に、この神を祀る風習と民俗の間に、村々の入口、辻等にこの神をま

つって、道祖神とした。そうしたことから、本町内の猿田彦大神を祀つてあるところは、旧道沿いの三叉路等に建てられているのが多く、旅人の交通の安全を願ひ又道案内標識として建立されたものが多い。一部では、道路の改良により、建てなおされているところがあるが、中には、注連縄を張り、花、線香を供えてあるところもある。

昔の旅する人は、この猿田彦大神の道標を頼りに、旅が続けられたことであろう。

九三 所在地 大字滝上(松葉)

部落内、三叉路

地点に(天満宮石段横)、自然石の碑が、建立されてある。(高一・一〇、巾〇・六五、厚〇・二米)猿田毘古大神 慶応四戊辰(一八六八)三月吉日 と銘あり



九四 所在地 大字今

部落中央(今・二津留緑)道路三叉路の右上部に自然石の碑

が、建立されてある。(高一・一八、巾〇・九米)上部に、太陽と月、中央に、猿田彦大神、明治二十年(一八八七)十二月吉日、石工、格之十の銘がある。

九五 所在地 大字二瀬本(丸小野)

秋葉神社鳥居の前に樹令三〇〇余年と云う通称一本松(古杉)であるが一本松と云う、その昔松の古木があつたのであろう)の根元に、(高さ一・〇、巾〇・四、厚〇・二四米)自然石に、猿田彦大神と刻まれた板碑が建立されてある。碑文には、右に文化十五年(一八一八)戊寅曆、中央に、奉祭猿田彦大神、左に三月吉祥日、下に願主山辺萬平と銘がある。



大正初期迄は、仁瀬本神社祭典の時、神輿ミコを奉持して神幸式の時、ここを仮宮として、神饌を供え、神樂を奏するところであったが、現在は単なる、猿田彦大神として往来の人々信仰を集めている。数年前より近くに住んで居られる山辺孝行氏が遠方より土石を運び一本杉の保護を兼ね大巾に埋立て、芝を張り、

つつじ等植栽され、自然木を配置され、憩の場として参拝者も多く常に新しい草花や栄え木が供えられている。



九六 所在地 大字馬見原(山の下)

町道右側に、自然石(高さ〇・八米、台石切石三段)に猿田彦大神・横に自然石(高さ〇・六三米、台石三段)に山神社と記された、碑が並んで建立してある。建立年月及詳しきは不明

九七 所在地 大字方ヶ野

部落公民館前に自然石(高さ一・一〇、巾〇・五、厚〇・三米)台石二段(上巾一・〇七、厚〇・三、下巾一・三〇、巾〇・一五米)に猿田彦大神の碑が建立されてある。元治元年(一八六四)子六月吉日區中と銘あり。

九八 所在地 大字柳井原

部落中央三叉路右側に、猿田彦大神の碑(高一・二二、巾〇・

六五、台石二段、上部巾〇・七、厚〇・三五、下部巾一・一五、厚〇・四五米)が建立されてある。裏面に、大正六年十一月建設と銘記あり



九九 所在地 大字馬見原(岩尾野)

岩尾野公民館(大日堂)登り段下左側に、自然石に猿田彦大神の碑(台石コンクリート・高一・一〇、巾〇・五米)が建立されてある。太陽と月が刻まれてあるが、建立年月等は不明。

一〇〇 所在地 大字滝上(王戸)

公民館正面上部旧道右側に、台石三段(〇・七二)碑高(〇・八〇、巾〇・四米)の自然石の猿田彦大神の碑が明治四十四



年二月十九日、建立されてある

一〇一 所在地 大字八木

永寿寺前三叉路

に、台石(巾〇・

三四、厚〇・〇九

米) 碑巾〇・二、

高〇・五五、厚〇・

一三米) の碑が建

立されてある。



寛政五(一七九三) 三月吉日、正面上部に⊙とあり中央に猿田

彦大神の銘あり。

一〇二 所在地 大字花上(下神働)

公民館の約百米手前三叉路地点の上部に(高さ〇・九、巾〇・

四五米) 自然石の碑が建立され、上左右に太陽と月、中央に、

猿田彦大神の銘あり。建立年月等不明。

一〇三 所在地 大字八木(八矢)

部落中央、三叉路に(高さ〇・八〇、巾〇・五米) 自然石の

碑が建立されてある。上部に太陽と月、中央に猿田彦大神、明

治二十年亥十一月廿日と銘あり。

一〇四 所在地 大字塩出迫(上塩出)

観音堂前、旧道

沿いに建立されて

ある。自然石で(巾

〇・七、高一・〇

米) 正面に猿田彦

大神、明治十三年

(一八八〇) 庚辰



二月一日、塩出迫村中、彫刻師、甲斐有雄と銘あり。

一〇五 所在地 大字柏

観音堂の左側に自然石(高さ一・〇、巾〇・三米) の碑があ

り、正面に猿田彦大神慶応二年(一八六六) の銘あり。

一〇六 所在地 大字橘(栴山)

部落中央地に自然石(台石巾〇・七五、高〇・三米) の上に

(巾〇・四三、高一・二五、巾〇・二五米) の碑があり。正面

に、猿田彦大神、右に丙子㊦、左に明治九年(一八七六) 正

月二十八日、と銘あり。上部左右に太陽と月の刻みあり。

一〇七 所在地 大字橋（椎屋）

村入口、三叉路
道上に、自然石で

台石（巾〇・八、

厚〇・二六）の上

に（高一・三、巾

〇・四、厚〇・三

米）碑があり、正

面に、猿田彦大神、安政七年（二八六〇）二月申年村中庚申日
と銘あり。



小倉村、早檜村連中と銘あり。

一〇八 所在地 大字下山（通山）

町道より左旧道に入ったところに自然石で基礎（巾〇・八五、

厚〇・二米）台石（巾〇・七、厚〇・三八米）に碑（高一・三

二、巾〇・七五、厚〇・二三米）が建立してある。正面に猿田

彦大神、明治二十二年丑九月十七日と銘あり。

一一〇 所在地 大字高畑

甲斐義徳氏宅西側家の上に高台あり、ここに板碑ありて台石

三段（高〇・八三米）の上に自然石（高一・〇六、巾〇・五二

米）に上部左右に太陽と月の刻みありて、猿田彦大神、明治三

十年酉二月吉日下組連中と銘あり。



一〇九 所在地 大字高辻

早檜神社境内、道路左側に自然石の碑が建立されてある。台

石（巾〇・七五、厚〇・二四米）の上に、碑（高〇・九、巾〇・

五三米）正面に猿田彦大神、天保三年（一八三二）仲秋吉日。

一一一 所在地 大字柳（柳谷）

国道左側林清喜氏所有水田の角に碑が建立されてある。基礎

自然石数個で石積（巾一・七、高一・二米）その上に、自然石

（巾〇・六、高一・四五、厚〇・四五米）に猿田彦大神と刻ま

れ祀られてある。昔ここを道路
が通っていたと云う立派な石碑
である。



一一二 所在地 大字柳

町道より約百米右に上り、佐藤睦夫氏宅入口左側に板碑が二
基、建立されてあり、右側が猿田彦大神の碑で(基礎台の上に)
高一・〇五、巾〇・五五米の碑で、上部に太陽と月の刻みあり
て、天保九^戊(一八三八)一月吉桂日、柳邑氏子と銘がある。

一一三 所在地 大字伊勢(旅草)

部落三叉路左側に、板碑が建立されてある。巾一・二、厚〇・
三五の玉石に自然石(高〇・八三、巾〇・五、厚〇・一三米)
で上部左右に太陽と月の刻みありて猿田彦大神、明治二十二年

一月吉日、氏子中と銘がある。

一一四 所在地 大字長谷



小学校庭の森
に碑が建立され
てある。自然石
に猿田彦大神、
明治二十二年九
月十五日、旧稲
生氏子中と銘あ
り。台石(巾〇・九五、厚〇・二米)碑(高一・三七、巾〇・
五七、厚〇・一米)

一一五 所在地 大字長谷(倉木山)

倉木山より二瀬本に通ずる旧道右上に自然石の碑が建立され
てある。(巾〇・六、高一・二、厚〇・一七米)正面の上部に太
陽と月が刻みありて、猿田彦大神、元治二年(一八六五)正月
と銘あり。

一一六 所在地 大字玉目

大師堂の横に碑が建立されてある。台石二段(下巾一・〇九、

厚〇・一三米、上巾〇・七五、厚〇・二米)の上に自然石(高〇・八、巾〇・四五、厚〇・一五米)に、上部左右に太陽と月の刻みありて楳田彦大神、明治七年三月寅四月十三日玉目中と銘がある。

その横に、石塔があり(巾〇・二一、長〇・六米)奉寄進
文政三年(一八二〇)四月、舟次と銘あり。

一一七 所在地 大字玉目(宿谷)

観音堂の石段上り左側に碑が建立されてある。

基礎自然石(巾一・五、厚一・〇米)台石(巾〇・四三、厚〇・二の角)の上に自然石で(高〇・九、巾〇・四米)碑の上部左右に太陽と月の刻みあり、猿田彦大神、文久元年辛酉(一八六
一)九月吉日宿谷村と銘あり。

一一八 所在地 大字上差尾

東山東福寺薬師堂前に三百余年と思われる老杉の根元に板碑が建立されてある。

基礎(巾〇・五九、厚〇・一五米)の上に、自然石で(高〇・六八、巾〇・五、厚〇・一五米)上部左右に太陽と月が刻れ猿田彦大神と銘あり、建立年月等不明。

一一九 所在地 大字上差尾(山造)

興侶義幸氏宅裏の大樫の根元に碑が建立されてある。昔は、この通路は旧道で、高森・清和をつなぐ重要路線の一つであったと云う。下台石(巾一・〇、厚〇・二五米)上段(巾〇・八、厚〇・三米)の上に、自然石(高〇・八五、巾〇・六、厚〇・一米)で上部左右に、太陽と月の刻みあり、猿田彦大神、明治二十一年戊子(一八八八)二月村内氏中、と銘あり。

一二〇 所在地 大字大見口

お堂前に板碑が建立されてある。碑面上部に太陽と月の刻みあり。猿田彦大神、明治十三年辰(一八八〇)年五月吉日と銘あり。基礎石(巾一・〇、高〇・六米)台石(巾〇・七五、厚〇・二米)碑石(巾〇・三五、高〇・九、厚〇・一三米)

一二一 所在地 大字大見口

公民館より約五十米手前、県道左側に板碑が建立されてある。基礎ブロック積(巾一・一二、高〇・六八米)に、自然石(巾〇・五五、高〇・八五、厚〇・一二米)に、上部に太陽と月があり猿田彦大神と銘あり。建立年月等不明なり。